2024 年度 学修成果（学士力）の検証　（1. 全学の学年比較）

教務部　教育開発・連携支援室

調査実施期間　2024 年 4 月 1 日～2025 年 2 月 7 日

回答者の延べ人数　3,030 名

９学科（当該期間中に学修成果の把握を実施した学科）全体を対象に分析を実施した。

学年ごとの回答者数、回答率

学年	人数	回答率
全学(2024 年度)	3,030	46.0 %
1 年生・入学時	933	72.0 %
1 年生・終了時	833	64.3 %
2 年生・終了時	428	32.5 %
3 年生・終了時	445	33.2 %
4 年生・卒業時	391	29.1 %
4 年生・入学時データ（2021 年度）	1,163	86.7 %

＊ %は各学年の全学生数における割合

設問

2016 年度より改変した学修成果を測る２６項目について、５段階ルーブリック式の質問を用いた。詳細は巻末の資料参照のこと。

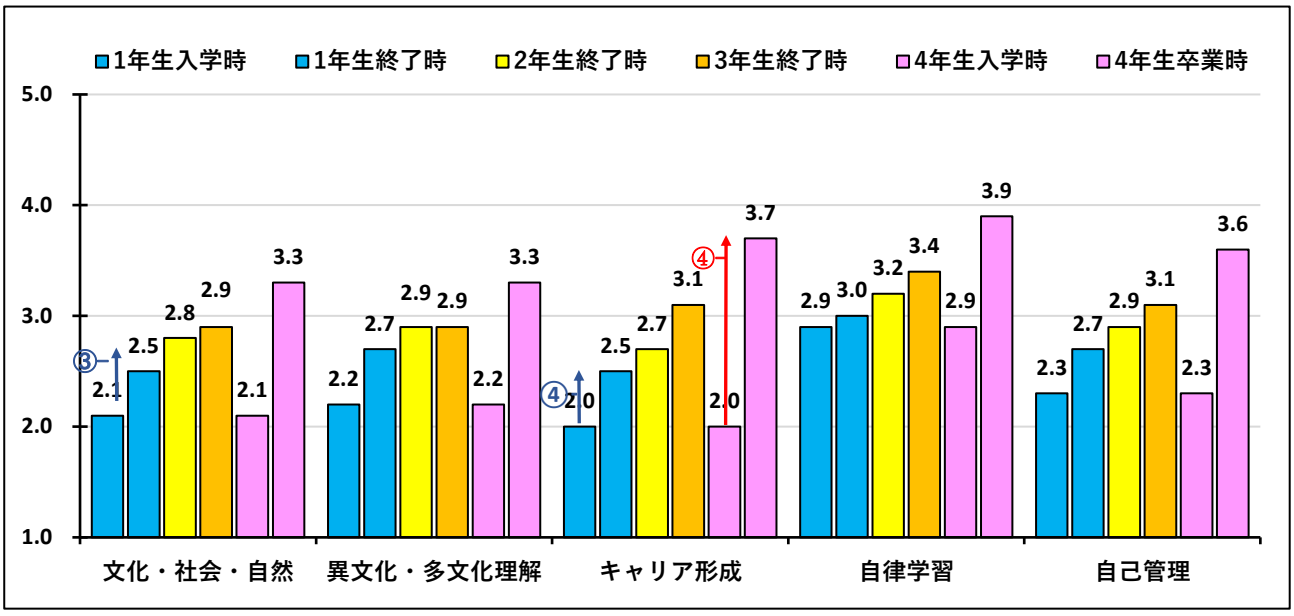
分析方法

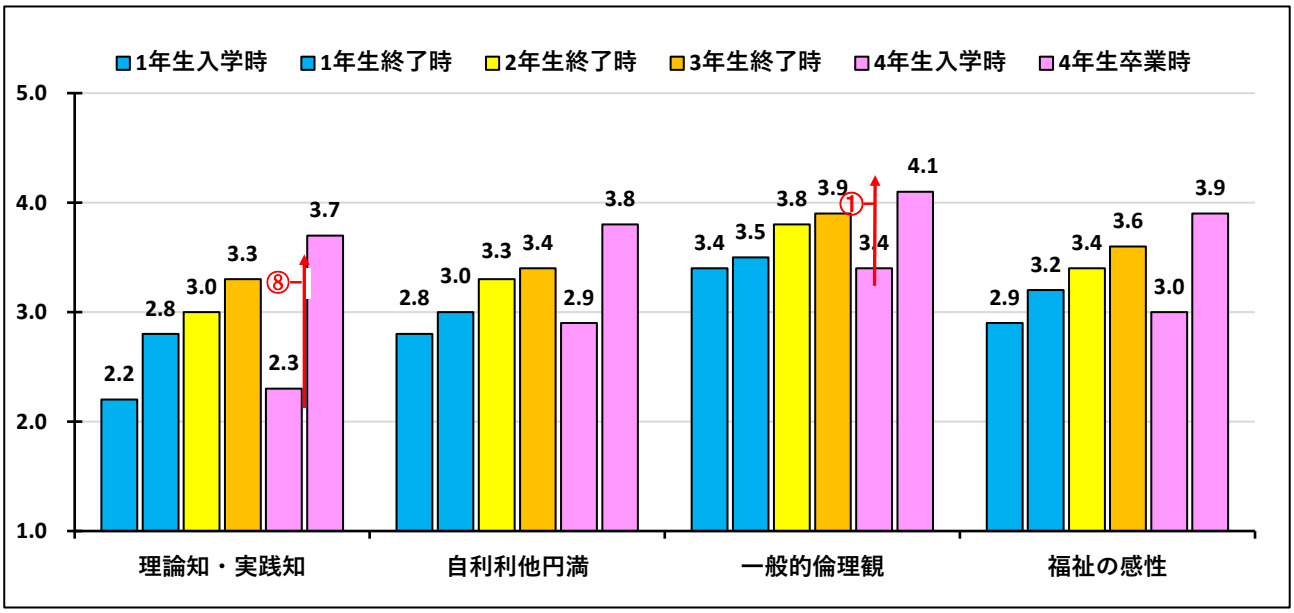
５段階式ルーブリック質問項目に対して、到達度の低い段階から順に１点から５点を割り当て、その平均点をもって各設問の得点とした。したがって、各設問の得点について、最低点は「1 点」、中央の値が「3 点」、最高点が「5 点」となる。

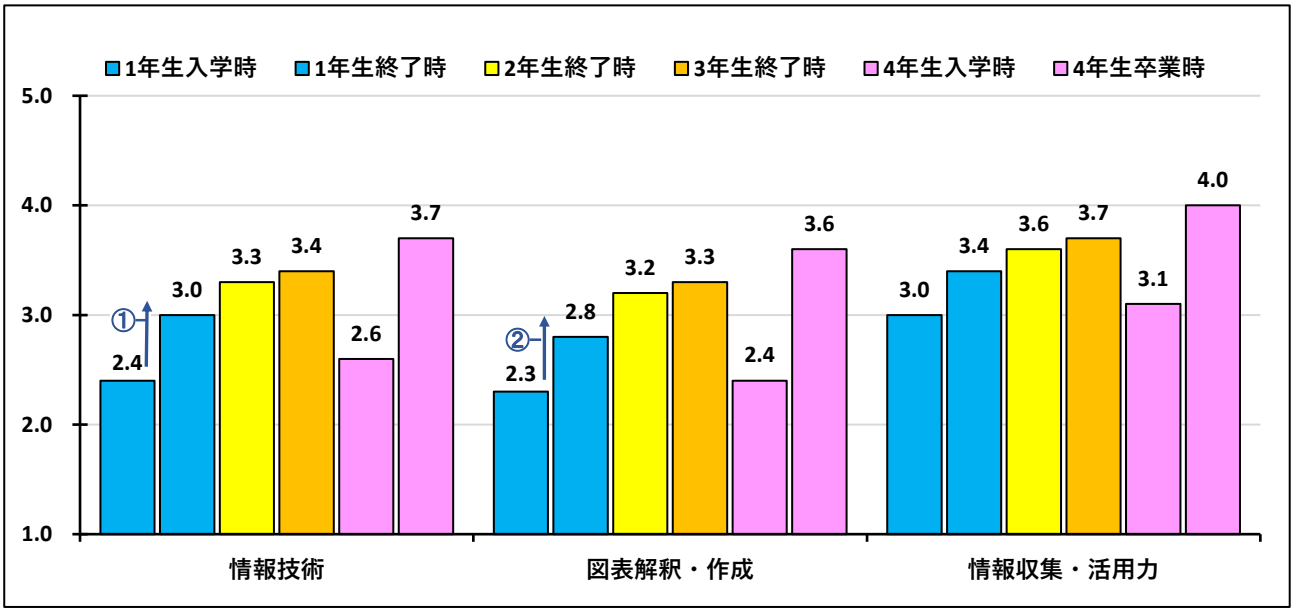
（青色の 2 本の棒グラフは 1 年生〔2024 年度入学生〕の入学時と終了時を示し、ピンク色の 2 本の棒グラフは 4 年生の入学時〔2021 年度〕と卒業時〔2024 年度〕を示した。）

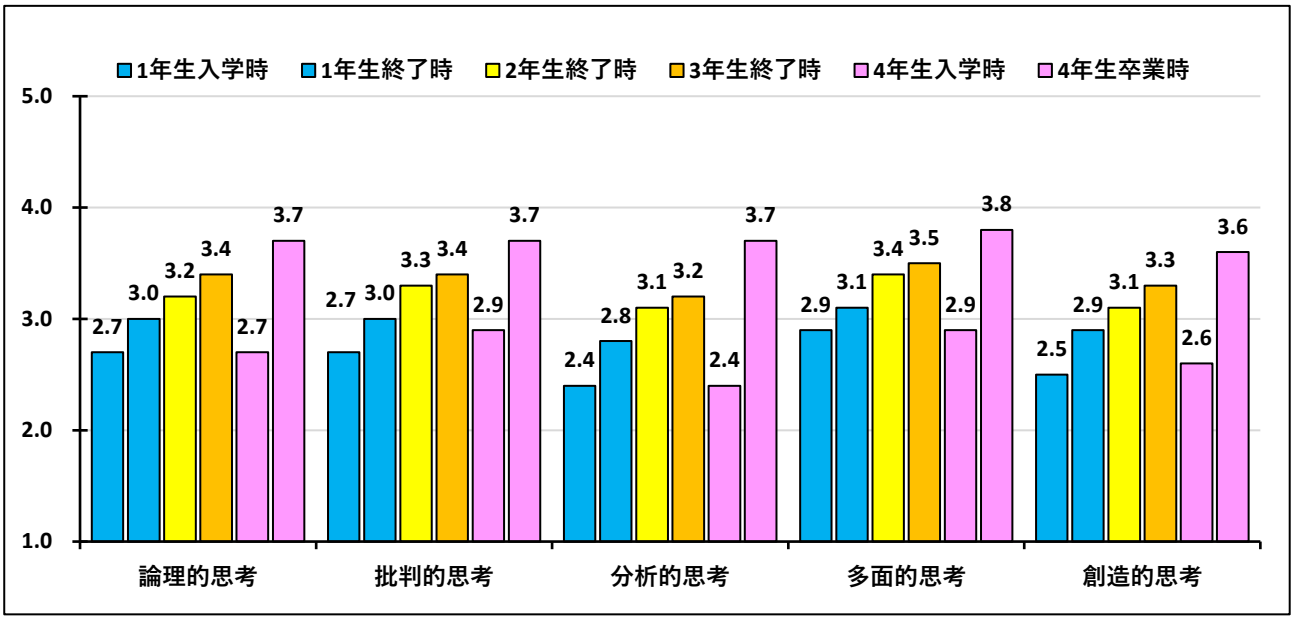
また、初年次教育での成果は、2024 年度入学者の 1 年終了時の値から入学時の値を引いたものを変化量（紺色数字↑）とした。また、本学での 4 年間の学修成果をみるため、〔2024 年度〕卒業時の値から〔2021 年度〕の 1 年入学時の値を引いたものを変化量（赤色丸数字↑）として算出し分析を行った。

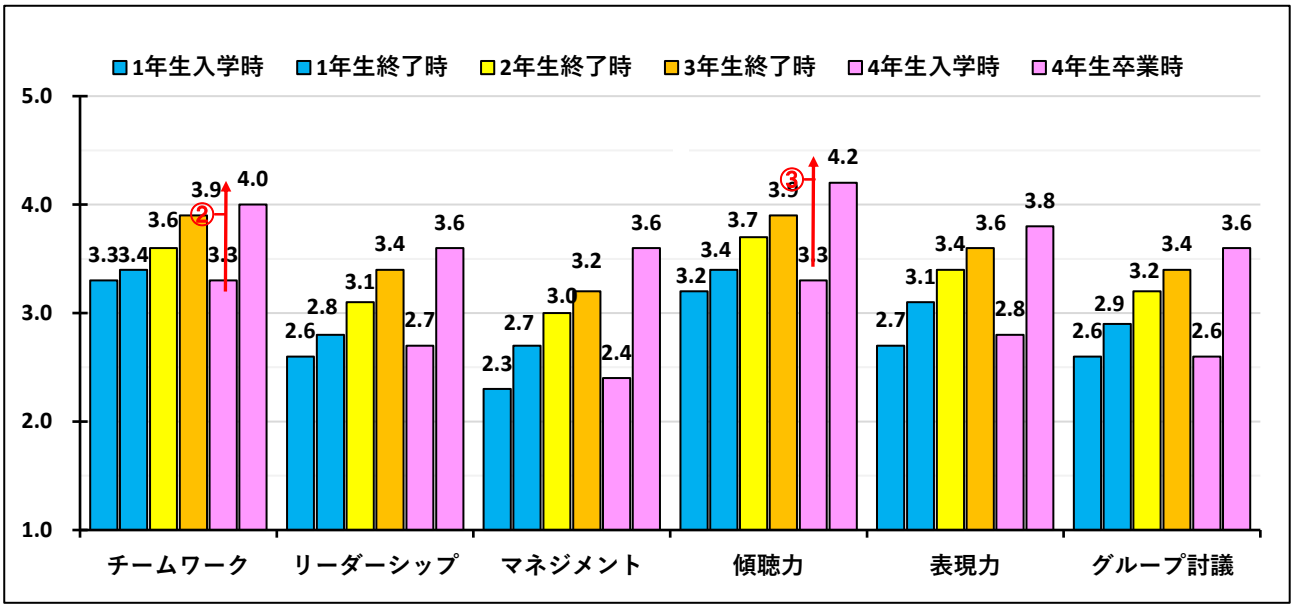
全学の推移（１年生入学時＝933 ／ 終了時＝833，２年生終了時＝428，３年生終了時＝445，
４年生入学時＝1,163 ／ 卒業時＝391）

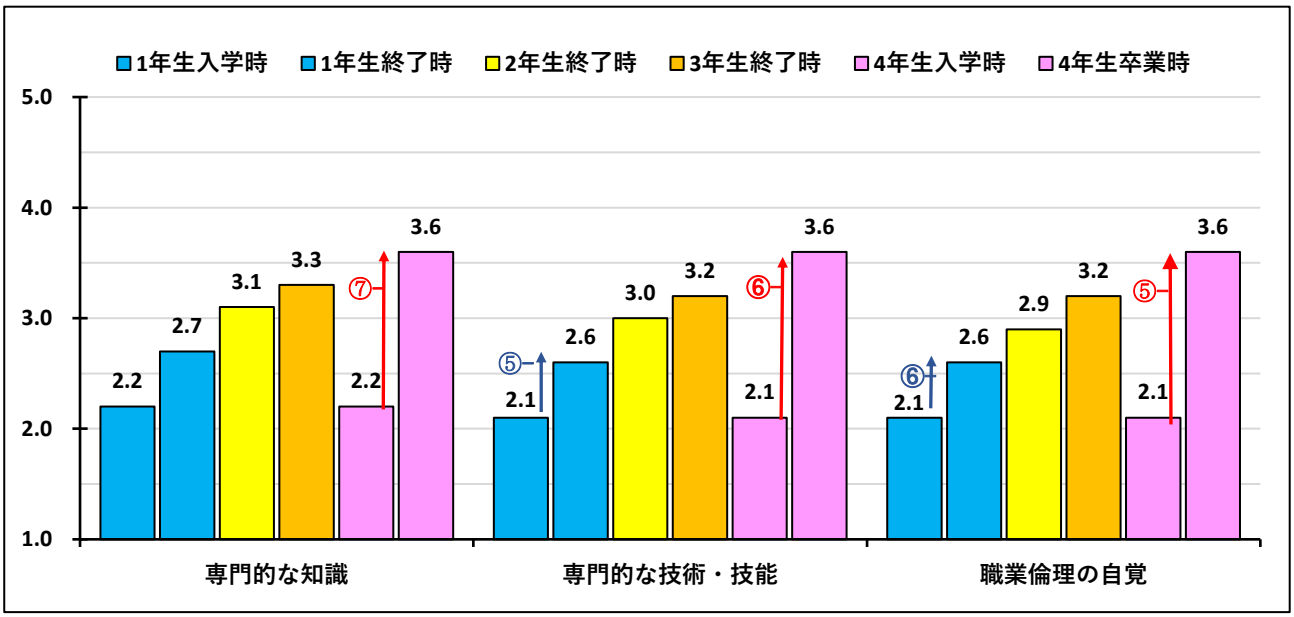







1年生入学時
1年生終了時
2年生終了時
3年生終了時
4年生入学時
4年生卒業時
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
2.7 3.0 3.2 3.4 2.7 3.7
2.7 3.0 3.3 3.4 2.9 3.7
2.4 2.8 3.1 3.2 2.4 3.7
2.9 3.1 3.4 3.5 2.9 3.8
2.5 2.9 3.1 3.3 2.6 3.6
論理的思考
批判的思考
分析的思考
多面的思考
創造的思考


1年生入学時
1年生終了時
2年生終了時
3年生終了時
4年生入学時
4年生卒業時
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
3.3 3.4 3.6 3.9 3.3 4.0
②
2.6 2.8 3.1 3.4 2.7 3.6
2.3 2.7 3.0 3.2 2.4 3.6
3.2 3.4 3.7 3.9 3.3 4.2
③
2.7 3.1 3.4 3.6 2.8 3.8
2.6 2.9 3.2 3.4 2.6 3.6
チームワーク
リーダーシップ
マネジメント
傾聴力
表現力
グループ討議


1年生入学時
1年生終了時
2年生終了時
3年生終了時
4年生入学時
4年生卒業時
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
2.2 2.7 3.1 3.3 2.2 3.6
⑦
2.1 2.6 3.0 3.2 2.1 3.6
⑤
⑥
2.1 2.6 2.9 3.2 2.1 3.6
⑥
⑤
専門的な知識
専門的な技術・技能
職業倫理の自覚

結果の分析

○ 初年次教育における変化（2024 年度入学生の入学時と 1 年終了時の結果を比較）：

全 26 項目の**入学時**の平均は 2.6 ポイント（2.0～3.4）であった。このうち「一般的倫理観」(3.4)、「傾聴力」(3.3)「チームワーク」(3.3) の 3 項目はいずれも中間点の 3 ポイントを上回っていることより、基本的な礼儀をわきまえ、他者とのコミュニケーションを身につけた学生が多いことがうかがわれた。一方、入学時のポイントが低かった項目は、「キャリア形成」(2.0)、「人類の文化・社会と自然に関する知識・理解」(2.1)、「専門職業人としての役割と責任と職業倫理の自覚」(2.1)、「専門的な技術・技能」(2.2) であり、社会に対する見方や専門性を意識した職業人としての見識の不足を自分なりに自覚している結果を反映しているものと考えた。

次に、1 年入学時から 1 年終了時での変化量をみると、平均で 0.4 ポイント上昇（+0.1～+0.6）していた。特に 1 年終了時点での伸び幅が大きかった項目は、①↑「情報技術」（+0.6)、②↑「図表解釈・作成」（+0.6)、次いで入学時には主観的評価は低かったものの変化量としては大きかった③↑「人類の文化・社会と自然に関する知識・理解」（+0.6)、④↑「キャリア形成」（+0.5)、⑤↑「専門的技術・技能」(+0.5)、⑥↑「専門職業人としての役割と責任と職業倫理の自覚」（+0.5）の 4 項目が 0.5 ポイント程度の伸びを示していた。また、先に上げた入学時より特にポイントの高かった「一般的倫理観」、「傾聴力」、「チームワーク」の 3 項目については、+0.2～0.3 程度でその後の伸び幅は少なかった。

以上の初年次教育における各項目のポイントならびに 1 年間での変化については、例年の傾向と大きな相違は見られず、ほぼ同様の結果を示していた。

○ 4 年間での変化（入学時・2021 年度と卒業時・2024 年度の結果を比較）：

すべての項目において卒業時の主観的評価において向上がみられ、平均で 3.7 ポイント（入学時 2.6 ポイント）まで上昇していた。4 年卒業時から 1 年入学時の値を引いた変化量では、平均で+1.1 ポイント（+0.6～+1.7）の増加が認められ、ルーブリックの基準でワンランク上昇したとも解釈できる。

1 年入学時（2021 年度）より一貫して高い主観的評価を示していた「一般的倫理観」、「チームワーク」、「傾聴力」の 3 項目については、いずれも変化量としては+1.0 ポイントに満たない状態であったが、卒業時（2024 年度）においてのポイントはすべて 4.0 を超える高い自己評価に向上していた（①↑「一般的倫理観」 3.5 → 4.1 ：+0.6、②↑「チームワーク」3.3 → 4.0 ：+0.7、③↑「傾聴力」3.3 → 4.2：+0.9)。

また、4 年間の過程で伸び幅が特に大きかった項目は、④↑「キャリア形成」(+1.7)、⑤↑「専門職業人としての役割と責任と職業倫理の自覚」(+1.5)、⑥↑「専門的な技術・技能」(+1.5)、⑦↑「専門的な知識」(+1.5)、⑧↑「行学一如に基づく理論知と実践知の融合」(+1.4) であった。これは、建学の精神を基盤におき、本学での 4 年間の学びを通じて専門的な知識と技能を着実に身につけ、キャリア形成を育んできたものであり、一定程度の学修成果の向上が得られたものと判断される。

まとめ

本学における学修成果の検証を学生自身による 5 段階のルーブリックを活用した主観的評価により行った。その結果、26 のすべての項目において学年に進むにつれて段階的に自己評価は高くなっていた。今年度の全学的な結果については、例年の調査結果とほぼ同様の傾向を示していた。

一方、本システムでの回答率の低迷の課題は、依然として改善に至っていない。ここ数年の状況では、入学時 60～70%程度まで上昇した回答率が 1 年終了時には 50～60%に、2－3 年終了時には 25～35%まで低下し、卒業時には 20～30%の回答率となっている。本学の学生が自身の学びを振り返りながらその成長を実感し、適切な教育効果の検証を図れるよう速やかに具体的な改善策の検討と実施が必要である。

資料　学修成果の把握　質問項目

01).人類の文化・社会と自然に関する知識・理解
1…文化・社会と自然に対して関心がない、またはその知識の獲得・修得に取り組んでいない
2…上記の知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…上記の知識についてよく理解しており、その事象の意味について説明できる
4…上記に加え、その事象が起きた理由について説明ができる
5…上記に加え、その事象と自分や社会との関連、望ましい姿をとらえることができる

02).異文化・多文化理解
1…異なる文化やさまざまな文化に関心がない、またはその理解に取り組んでいない
2…上記の文化の理解に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…上記の文化について学んで理解しており、異文化・多文化の特徴について説明できる
4…上記に加え、異文化・多文化の立場の人の考え、気持ち、行動について説明ができる
5…上記に加え、異文化・多文化の人と相互理解し、適切に接することができる

03).キャリア形成
1…キャリア形成に関心がない、または取り組んでいない
2…キャリア形成に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…勤労観・職業観とキャリア関連の知識・能力について理解・修得し、将来を設計できる
4…実社会での体験による学修に取り組み、実社会で適切に行動できる
5…将来にわたり社会的・職業的に自立して行動できる

04).自律的学習
1…大学の授業や与えられた課題について、聞いてもわからない、または取り組んでいない、
2…大学の授業や与えられた課題について、受け身で取り組んでいる
3…大学の授業や与えられた課題について、関心をもって取り組むことができる
4…上記に加え、新たな疑問や問題意識をもって取り組むことができる
5…上記に加え、自ら調べ、主体的に取り組むことができる

05).自己管理
1…目標と計画－実行－点検・評価－改善の自己管理に関心がない、または取り組んでいない
2…上記の自己管理に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…自らマイステップなどを活用して学修場面における自己管理に取り組むことができる
4…上記に加え、さまざまな場面で応用し、自分自身を向上・成長させることができる
5…上記に加え、自己管理を社会に出ても役立てることができる

06).行学一如に基づく理論知と実践知の融合
1…獲得・修得した知識や技能・技術と自分の行動や経験を関連づけて学んでいない
2…上記の知識や技能を自分の行動や経験に照らし合わせて理解しているが、応用していない
3…上記の知識や技能を自分の行動や経験に応用し、次の学びに役立てることができる
4…上記に加え、実際の状況を想定した模擬場面で生かし、次の学びに役立てることができる
5…上記に加え、実践場面で生かし、次の学びに役立てることができる

07).自利利他円満

1…身近な他者の幸福のために役立つことに関心がない
2…身近な他者の幸福のために役立つ大切さは理解している
3…社会に関心を向け、他者の幸福のために役立ちたいという気持ちをもって行動できる
4…上記に加えて、何らかの社会貢献や地域貢献を行うことができる
5…上記に加えて、幅広い場面において率先して継続的な社会貢献活動をできる

08).一般的倫理観

1…社会のルールや集団でのマナー、礼儀などに関心がない、または取り組んでいない
2…上記のルール、マナー、礼儀などについて最低限は守ることができる
3…上記のルール、マナー、礼儀などについて必要な理由や意義を理解して守ることができる
4…上記に加え、状況（時、人、場合）に応じて他者に配慮して行動することができる
5…上記に加え、良心に基づき、誠実に社会から信頼される良識ある行動をとることができる

09).福祉（ウェルビーイング）の感性

1…見えないもの（気持ちや真意、本質など）に関心がない、または感じ取ろうとしていない
2…上記の見えないものを感じ取ろうとしているが、表面的な理解にとどまることが多い
3…上記の見えないものを感じ取る感性の大切さを理解し、取り組むことができる
4…上記に加え、その感性をある程度備え、状況によって気づき感じ取るとることができる
5…上記に加え、その感性を日常生活で活用でき、さらなる感性の練磨に励むことができる

10).情報技術

1…情報技術（ワープロ・表計算・プレゼンソフト）の操作の修得に取り組んでいない
2…上記の情報技術の基本的な操作の修得に取り組んでいるが、支援なしにはできない
3…上記の情報技術の基本的な操作は、限られた範囲の機能については一人で可能である
4…上記の情報技術の基本的な操作が可能で、与えられた課題に対しては適切に利用できる
5…上記に加え、応用的な操作が可能で、授業外で幅広く活用でき、初心者にも教えられる

11).図表解釈・作成

1…得られた情報やデータの適切な整理の仕方や図表の正しい読み取り方に取り組んでいない
2…得られた情報やデータの整理に取り組んでいるが、支援なしにはできない
3…得られた情報やデータについて図表やグラフを作成することができる
4…上記に加え、図表やグラフを分析し、その意味を正しく読み取ることができる
5…上記に加え、問題点や課題を指摘できる

12).情報収集・活用力

1…インターネットや図書、雑誌などの情報の適切な収集・活用に取り組んでいない
2…上記の情報について、限られた情報源を基に、そのまま利用する
3…上記の情報について、多様な情報源から収集しているが、整理せず、そのまま利用する
4…上記の収集に加え、大学の授業やレポート課題等に整理・活用できる
5…上記の収集・活用に加え、さまざまな問題発見・解決に活用できる

13).論理的思考
1…筋道を立てて思考することに関心がない、または取り組んでいない
2…単純な事柄についても、事実と意見を整理して筋道を立てて思考することは苦手である
3…単純な事柄について、事実と意見を整理して筋道を立てて思考することができる
4…上記に加え、複雑な課題でも事実と意見を整理して筋道を立てて思考することができる
5…上記に加え、事実と意見を整理して筋道を立てて思考することが日常的にできる

14).批判的思考
1…さまざまな情報や報道、他者の意見や自分の考えをそのまま鵜呑みにしている
2…上記の情報や考えが偏ったものである可能性に気づいている
3…上記の情報や考えについて、距離を置いて批判的に吟味・検討することができる
4…上記に加え、多様な可能性を考えたうえで、的確に問題点を指摘することができる
5…上記に加え、現場で状況を見、当事者の認識や気持ちを確かめて判断することができる

15).分析的思考
1…問題や予想外・例外の出来事についての因果関係の把握について関心がない
2…上記の因果関係の把握について関心はあるが、説明できるレベルではない
3…上記の因果関係の把握について理解しており、着目して把握することができる
4…上記に加え、調査や分析による根拠を示すことができる。
5…上記に加え、課題を明らかにし、予防や解決のための方向付けを的確に示すことができる

16).多面的思考
1…さまざまな視点や自分とは異なる見方に関心がない
2…上記の視点や見方に関心はあるが、一面的な見方で理解している
3…上記の視点や見方を積極的に受け入れ、取り入れることができる
4…上記に加え、上記の視点や見方を組み合わせて、問題発見・解決に取り組むことができる
5…上記に加え、改善や解決を提案し、実際の行動に活用できる

17).創造的思考
1…新しい考えや価値を見出すことに関心がない
2…新しい考えや価値を見出す仕方に関心はあるが、説明できるレベルではない
3…新しい考えや価値を見出す仕方を理解している
4…上記に加え、新しい考えや価値を生み出すことができる
5…上記に加え、新しい考えや価値を活用して提案や行動をすることができる

18).チームワーク
1…他者との協調・協働（目標と問題の共有、役割とルールの認識など）に関心がない
2…上記の協調・協働について関心はあるが、説明できるレベルではない
3…上記の協調・協働を行うことができるが、受け身である
4…上記の協調・協働を自ら創意工夫して行い、目標の実現に積極的に貢献することができる
5…上記に加えて、リーダーが動きやすいように手助けし、協力することができる

19).リーダーシップ
1…リーダーとしての役割（方向付け、役割とルール、モチベーションなど）に関心がない
2…上記のリーダーとしての役割について関心はあるが、説明できるレベルではない
3…上記のリーダーとしての役割を理解し、真摯に目標の実現に取り組むことができる
4…上記に加え、メンバーの気持ちに配慮し（感謝や励ましなど）、状況に応じて対応できる
5…上記に加え、困難な状況や危機的状況にも対応することができる

20).マネジメント
1…企画と創造（欲求の理解、企画、体制作り、周囲の協力、新たな価値など）に関心がない
2…上記の企画と創造について関心はあるが、説明できるレベルではない
3…上記の企画と創造について理解し、取り組むことができる
4…上記に加え、経験のない課題でも事前に起こりうる問題も想定して取り組むことができる
5…上記に加え、挑戦的な課題でも明確な目標と現実的計画を設定して取り組むことができる

21).傾聴力
1…適切な傾聴（他者の話を聴くこと）に関心がない、または取り組んでいない
2…上記の傾聴に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…他者の話を尊重してよく聴きくことができる
4…上記に加え、質問などによって相手の関心や欲求を把握することができる
5…上記に加え、相手の様子から相手の気持ちを理解することができる

22).表現力
1…適切な表現（自分の考えを伝えること）に関心がない、または取り組んでいない
2…上記の表現に取り組んでいるが、その仕方を説明できるレベルではない
3…自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる
4…上記に加え、聞き手の関心や欲求に応じて自分の考えを伝えることができる
5…上記に加え、聞き手の気持ちに配慮して自分の考えを伝えることができる

23).グループ討議
1…グループ討議（役割、意見促進、まとめなど）に関心がない、または取り組んでいない
2…上記のグループ討議に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…上記のグループ討議では、適切な手順・手段にそって話し合いを行うことができる
4…上記に加え、グループの中での意見を正確かつ的確に要約できる
5…上記に加え、今までになかった新しいアイデアの発想へとつなげることができる

24).専門的な知識
1…専門的な知識に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない
2…上記の知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…上記の知識について、基本は理解しており、説明できる
4…上記に加え、応用的な課題について上記の知識を用いて説明できる
5…上記に加え、実社会での実践に役立てることができる

25).専門的な技術・技能

1…専門的な技能・技術に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない
2…上記の技能・技術の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…上記の技能・技術について、基本は理解しており、説明できる
4…上記に加え、実際場面における上記の技能・技術の活用の仕方を説明できる
5…上記に加え、実社会での実践に役立てることができる

26).専門職業人としての役割と責任と職業倫理の自覚

1…専門職業人の役割と責任と職業倫理に関心がない、またはその修得に取り組んでいない
2…上記の役割と責任と職業倫理の修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
3…上記の役割と責任と職業倫理について、基本を理解しており、説明できる
4…上記に加え、実際場面における上記の役割と責任と職業倫理に基づく行動を説明できる
5…上記に加え、実社会での実践に役立てることができる